

# 聴覚障害者の映画に賞

## 文化庁 今村監督、被災地で撮影

生まれつき耳が聞こえない映画監督今村彩子さん(42)(名古屋市長緑区)が制



今村監督



映画「き」えなかったあの日」のワンシーン

作したドキュメンタリー映画「き」えなかったあの日(116分)が、文化庁映画賞の文化記録映画優秀賞を受賞した。賞の贈呈式は11月2日に東京で行われる。今村さんは「受賞の知らせを聞いてびっくり。出演者や制作に協力してくれたすべての人のおかげです」と喜びを語った。

今村さんはろう学校に通い、手話を習得。愛知教育大在学中の20歳の時、アメリカで映像制作を学び、帰国後、映像制作を開始。東日本大震災で被災したろう者の暮らしを長期取材した作品などこれまで30本以上の作品を制作している。

「き」えなかったあの日」は、8年前に公開したドキ

ュメンタリー映画の続編。東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨で被災した聴覚障害者の日常を記録した。受賞理由として、「私たちの身近にあるろう文化の豊かさを生き生きと伝えると共に、災害に強い共生社会を構築するための課題にも触れた秀作」と評価している。

今村さんは「聴覚障害者が被災から立ち直る様子や、日常を懸命に生きる姿などを伝えたかった。撮影をきっかけに被災者と交流が始まり、被災地に足を運ぶたびにこちらが元気をもらっていた」と話す。

今回は、「ろう重複」をテーマにした作品を考えているという。「聴覚障害の